

# 琉球大学学術リポジトリ

## 第1章ラーニング・ポートフォリオを用いた教育実践 報告：本報告の背景について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大学教育センター報編集委員会 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/41245">http://hdl.handle.net/20.500.12000/41245</a>

# 第1章 ラーニング・ポートフォリオを用いた教育実践報告

## 本報告の背景について

大学教育センター報編集委員会

大学教育センターは2012年7月に帝京大学の土持ゲーリー法一教授を講師としてお招きして、「授業におけるラーニング・ポートフォリオの導入」と題したワークショップを開催した。その趣旨は、2012年度から導入された全学的な学士課程教育の学習教育目標（URGCC学習教育目標）の中には、「自律性」「社会性」といった知識の習得に限定されない目標も含まれており、個々の授業方法や成績評価方法について新たに検討する余地があるというものであった。

一方、全学学士教育プログラム委員会は、学習達成度評価の一手法であるラーニング・ポートフォリオを用いた成績評価の方法について理解を共有し、本学における学習達成度評価の構築に資することを意図して、2012年9月に授業担当者のうち有志数名によるラーニング・ポートフォリオを用いた成績評価の試行を進めることを決定した。

そこで、上記ワークショップ参加者の中から数名の方に打診し、最終的に3名の先生から同試行へのご協力を得ることができた。次節以降はその実践報告を寄稿いただいたものである。

ラーニング・ポートフォリオは従来のペーパーテストでは測れない能力を測るための代替評価手段として注目されているといえようが、もとより大学では、授業によっては論文、レポート、あるいはプレゼンテーションが成績評価の根拠材料となり、多様な評価手法を用いている。これに加えてラーニング・ポートフォリオを用いることの意義、すなわち、それによって何を測定することが出来るのか、が問われよう。

また、評価手段としてのポートフォリオの本質的な共通点は、①学習者の学習資料を収集したものである点、②資料収集はランダムにではなく目的を持って行われ選択される点、③学習者が資料に基づき内省を行う点、にあるという（峯石、2002）。しかし、内省（省察、振り返り）をどのような観点や基準で評価できるというのか。具体的なルーブリックの作成を検討する必要があるだろう。

一方、評価手段ではなく授業手段としてポートフォリオに着目することも考えられる。学生の学修意欲向上を図る上で、自己モニタリングとして機能するポートフォリオやルーブリックの効果に関心をもたれるところである。

3名の先生方と事前に明確な課題を共有したわけではなく、具体的な取組内容は裁量にお任せした。けれども、上記の課題や関心を含む報告内容になっていると思われる。

## 引用文献

峯石緑（2002）『大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究』溪水社、16-17頁。